

資料提出のみ



Administrative Evaluation Bureau



Ministry of Internal Affairs and Communications



日本評価学会・社会実験分科会 2020 研究報告会
パネルディスカッション「エビデンスに基づく政策立案(EBPM)の普及に向けて」

国の行政機関におけるEBPMの取組 実例の研究 -現状と課題-

Study on Evidence-Based Policy Making (EBPM) in practice in the Government of Japan

令和2年5月16日(土)
砂山 裕(総務省行政評価局)

※本編中、意見にわたる部分は発表者の個人的見解である。

学会誌への投稿論文の概要と結論

政府における具体的な分析実例の概観と考察

各府省それぞれの取組に加え、総務省行政評価局は、政策評価制度の制度官庁及び評価専任組織の立場から以下の取組を推進。

(1) EBPM実証的共同研究
具体的な実例を発信すべく、総務省と各府省が実証的な共同研究を実施(全体像は次ページ)

(2) 行政評価局調査
評価専任組織としての総務省行政評価局が行う調査の中で、EBPMの考え方に即した分析を実施

【示唆1】日本の「EBPMの要素」としては、以下の2つが有用。
①政策ロジックの整理
②エビデンスの追求(データ分析等)

【示唆2】エビデンスを得るためのデータ分析は、プログラム評価の質の向上に寄与。

今後の課題

EBPMの普及・定着のためには、制度的基盤の整備が不可欠。

↓

既存の制度への取り込みが現実的。政策評価制度が最有力候補。

2

(参考)EBPM実証的共同研究の分析の全体像

ロジックモデルの作成【4テーマ共通】 政策効果の発現メカニズムを構造化・視覚化 → 分析の目的・枠組み・重点ポイント等を明確化			
<p>IoTサービス創出支援事業</p> <p>分析目的 個別モデル事業の政策効果を把握するとともに、事業の継続性や他地域への展開可能性について検証</p> <p>分析手法 個別事業のニーズ、デザイン、プロセス、政策効果等について体系的に分析。事業の特性に応じた手法を用いて、各コンソーシアムが政策効果の把握を実施。</p> <p style="text-align: center;">R C D 推 定 分 析</p> <p>結果の活用 次年度以降の新規事業における縦展開・横展開等の判断材料として活用</p>	<p>女性活躍推進</p> <p>分析目的 企業の女性管理職比率等の公表義務付けの効果(女性管理職比率等に与える影響)を把握</p> <p>分析手法 企業アンケート及び既存の公的統計により、過去に遡って施策の実施前後の状況のデータを収集し、以下の手法で分析。 ・RD(回帰不連続デザイン) ・DID(差の差分分析) ・回帰分析</p> <p>結果の活用 労働政策審議会での審議や、中小企業への情報公表の後押しとして活用</p>	<p>競争政策広報</p> <p>分析目的 広報手段の違いやその実施方法の違いによる広報効果の違いを検証</p> <p>分析手法 実際に広報事業を実施してデータを取得し、以下の手法で分析。 ・RCT(ランダム比較試験) ・回帰分析</p> <p>結果の活用 広報手段やその効果的な実施方法の選択に当たり、判断材料として活用</p>	<p>訪日インバウンド</p> <p>分析目的 地域観光づくりを担うDMOIによる取組の効果(訪日外国人観光客の集客に与える影響等)を把握</p> <p>分析手法 民間事業者が保有するビッグデータを活用し、コンテンツ発信施策等による滞在人数・滞在時間・購買額、SNSへの投稿の変化を以下の手法で分析。 ・事前事後分析</p> <p>結果の活用 各DMOIの取組を推進する方策を検討する上で有益な材料として活用</p>

※ 実証的共同研究の報告書
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01hyoka01_02000031.html

3

普及の課題、政府・学会・研究者等に期待する役割

EBPMの普及に当たっての課題

(1) 実例の創出等
引き続き、EBPMの実例を創出・発信・共有・蓄積することが重要。

(2) 制度的基盤の整備(再掲)
取組の土台となる安定した制度的基盤の整備が不可欠。ただし、全く新たな制度の構築には膨大な時間とコストがかかる。既存の仕組みの中に取り込むことが現実的かつ効率的。

学会・研究者等への期待

日本の実際の政策を対象とした分析・研究成果の発表・蓄積を期待。
なお、制度・仕組みや組織の研究においては、日本の行政の文化や実情を踏まえた提案を期待。(諸外国の取組の直輸入は、実際には困難であることに留意。)

政府への期待

EBPMは政策の質の向上のための取組であるとの問題意識を持ち、引き続き、全府省において実例の創出等に取り組みことを期待。
また、政策評価制度のような既存の制度への取り込み方策の検討を期待。

4